

## 森田博之 2期目一般質問一覧（会期順）

質問名／質問の要旨／答弁要旨／市へ要望

会期	質問名	質問の要旨	答弁要旨	市へ要望
令和5年第2回 定例会 (2023年6月)	地域経済発展のための施策 ／地域とともにあるコミュニ ティ・スクール	新型コロナ後を見据えた地域経済支援、創業塾・創業支援、商工会との連携、地域通貨の可能性を質問。あわせて、全小中学校で導入されたコミュニティ・スクールの現状、具体例、期待効果、推進上の課題を確認。	創業塾は国の認定計画に基づき商工会・中小企業大学校と連携して実施。地域通貨は地域経済活性化に結びついた事例があると認識。コミュニティ・スクールは学校運営協議会を設置した学校で、保護者や地域が課題解決に参画しており、緊急時にも学校と地域が一体で対応できる効果があるとした。	創業を志す人を後押しし、地域経済の発展につながる施策の充実を要望。コミュニティ・スクールは子どもの成長のための仕組みであり、学校と地域が一体となって子どもと向き合える環境の充実を求めた。
令和5年第3回 定例会 (2023年9月)	歳入確保と財源創出／民間 企業等との包括連携協定	歳入確保の現状と課題、ふるさと納税や寄附、企業誘致、クラウドファンディングなど新たな財源創出策を質問。あわせて、包括連携協定の現状と課題、子ども食堂や買い物支援など地域課題への活用可能性を確認。	デジタル系を含む企業誘致を調査・研究しているとし、クラウドファンディングは具体事業を示して寄附を募る手法として今後検討すると答弁。民間事業者との連携についても調査・研究を進め、買い物支援は高齢化の中で効果も含め研究していくとした。	寄附者の思いを形にできるクラウドファンディングの活用を強く要望。包括連携協定を地域課題の解決に生かせる有効な手段として、実効性のある活用を求めた。
令和5年第4回 定例会 (2023年12月)	市内小・中学校における不 登校／自治会活動の支援	不登校児童・生徒への支援体制、家族支援、学校と地域の連携・情報共有を質問。あわせて自治会のデジタル活用、助成金の活用、加入促進策、市ホームページやSNSでの発信支援を確認。	不登校支援では、スクールソーシャルワーカーを3名体制とし、個々の状況に応じた支援を行っている。学校と地域の連携では、登下校の見守りやゲストティーチャーなどの関わりがある。自治会へのデジタル支援は相談内容に応じて対応し、SNSは多くの方に周知できる有効な手段との認識を示した。	学校と地域のさらなる連携に努め、地域の力を学校運営にも生かすよう要望。自治会のデジタル活用支援や見える化を進め、加入促進につなげる取組を求めた。
令和6年第1 回定例会 (2024年3月)	市の施策展開における公 民連携／デジタル地域ポ イント事業・デジタル地 域通貨事業	市民や事業者の声を生かす仕組みや公民連携の現状、今後の可能性と課題を質問。あわせて、デジタル地域ポイント・地域通貨が地域経済循環や市民参加の促進にどのような効果を持つか、導入時の課題を伺った。	市は、パブリックコメントやオープンハウス型説明会の実施、公民連携による包括連携協定などに取り組んでいると答弁。まちづくり協議会や市民協働センターの機能、民間提案制度等は地域課題解決に向けた手法の一つとして今後検討するとした。デジタル地域ポイント・地域通貨は、市内経済の活性化や地域活動参加の促進に効果がある一方、導入・運営財源の確保、市内事業者の体制整備、利用促進が課題とした。	公民連携を前に進める体制整備と、地域課題の解決につながる民間提案の受け皿づくりを要望。あわせて、地域内経済循環を高める仕組みとして、デジタル地域通貨の導入検討を求めた。
令和6年第2回 定例会	空き家対策／AEDの普及	空き家の戸数・相談件数・実態調査結果、空き家対策の目標と効果、関連団体との連携、活用による地域活性化を質	空き家対策では、令和4年度に空き家対策ハンドブックを作成し、令和5年度には旧耐震木造住宅の除却費助成を開	空き家をネガティブに捉えるだけでなく、地域の空間資源として前向きに活

会期	質問名	質問の要旨	答弁要旨	市へ要望
(2024年6月)		問。あわせて AED の設置状況、消防団詰所での活用、屋外設置の課題、市民意識向上策を確認。	始。所有者課題に対応するため、関係団体と協力・連携した相談体制を構築している。AED は屋外設置に高コストや盗難リスク等の課題がある一方、北多摩西部消防署と連携し、市報や公式 LINE 等で普及啓発を行っている。	用する発想での取組を要望。AED は消防団詰所等への屋外設置や救命講習に参加しやすい環境整備を求めた。
令和 6 年第 3 回 定例会 (2024 年 9 月)	コミュニティ・スクールの充実／中学校部活動の地域移行	コミュニティ・スクールの持続可能な運営、人材確保、成果を高める支援策と今後の展望を質問。あわせて、アルティメット・バドミントン・体操等の地域クラブの現状と評価、指導者確保、地域団体との連携、安全管理、今後の課題を確認。	部活動の地域移行では、令和 5 年度からアルティメットとバドミントン、令和 6 年度は体操クラブを加えて実施している。指導者確保は、部活動を希望する教員の兼業や地域団体との連携により、地域人材や専門性の高い指導者の確保に努める考えを示した。コミュニティ・スクールについても、地域の参画を前提に学校運営を支える方向で進めている。	コミュニティ・スクールは継続的な人材確保と支援策の充実を求めた。部活動の地域移行は大きな改革であり、予算・人材・施設利用などの課題を踏まえ、地域特性を生かして着実に推進するよう要望した。
令和 6 年第 4 回 定例会 (2024 年 12 月)	スポーツまちづくり／市の考える PTA の在り方	スポーツ振興の現状と課題、地域活性化・健康・ビジネスへの活用、スポーツ振興課の必要性、今後の方向性を質問。あわせて、PTA 組織の現状と課題、保護者負担軽減や柔軟な運営を支える手引等の必要性を確認。	市民意識調査でスポーツ実施率は令和 5 年度 45.8%で、市の目標 70%には届いていない。令和 7 年度から市長部局にスポーツ振興課を新設し、介護予防や観光施策との連携、健康増進、地域活性化を図ると答弁。PTA では、市内各校で解散または解散検討の状況があり、市教育委員会として PTA 運営の手引は作成していないとした。	スポーツをまちづくりに生かす取組を具体化し、地域活性化につなげるよう要望。PTA については、負担軽減と柔軟な運営を支える手引等の活用をぜひ検討するよう求めた。
令和 7 年第 1 回 定例会 (2025 年 3 月)	うまかんべえ～祭の今後の在り方／第一小学校の二宮金次郎像の修復	うまかんべえ～祭の開催目的、これまでの成果、開催見送り後の方針、戦略的見直し、持続可能な運営を質問。あわせて、第一小学校の二宮金次郎像の現状、修復・補修の必要性、教材活用の可能性を確認。	うまかんべえ～祭については、現在の『地域社会を元気にする』目的は達成している一方、ご当地グルメの定着は図れていないと認識。今後は会場使用料の発生や物価高騰による運営費増などから、持続可能なイベントとなるよう見直しが必要とした。二宮金次郎像は左手首付近から先が欠損しており、望ましくない状況だが、修復・補修は学校の意見を聞きながら熟慮を重ねたいとし、教材活用も場合によっては考えたいと答えた。	祭りが果たしてきた地域一体感や魅力発信の役割を別の形で継承し、持続可能な地域イベントを検討するよう要望。二宮金次郎像の修復・補修を検討し、報徳の教えを市政や教育にも生かすことを求めた。
令和 7 年第 2 回 定例会 (2025 年 6 月)	市民協働／自治会への支援	市民協働の現状・成果・課題、行動方針、市民協働事業提案制度やボランティア・市民活動センターとの連携を質問。あわせて自治会活動の現状と課題、自治会連合会の考え方、補助制度や支援策を確認。	市民協働の課題は、より多くの市民参加に向けた機運醸成と機会創出であり、(仮称)東大和市まちづくりポイント事業の実施に向け準備を進めている。自治会については、高齢化やライフスタイルの多様化による会員減少を課題と認識し、自治会連合会があれば他自治会との連絡調整や地域課題解決の面でメリットがあると答弁した。	市民協働提案制度の創設や市民活動センターとの連携強化を要望。自治会では、連合会設置への協力、自治会員カード、活動加算割、補償制度など実効性ある支援策の検討を求めた。

会期	質問名	質問の要旨	答弁要旨	市へ要望
令和7年第3回 定例会 (2025年9月)	農業振興／技術職員の確保	農業の担い手確保・育成、農地保全・活用、農のあるまちづくりを質問。あわせて、土木・建築・電気など技術職員の通年採用の成果と課題、職員不足が公共施設更新等へ与える影響、今後の確保策を確認。	技術職員の通年採用は一定の成果がある一方、特に建築職の確保が課題であり、技術職不足が続けば各種施策や事業に影響を与えかねないと答弁した。農業振興では、農地や農業者を取り巻く現状・課題を踏まえつつ、農のあるまちづくりの視点から取組を進める方向が示された。	技術職員の安定的確保に向け、資格取得支援や育成方針への明記を求めた。農業振興では、担い手育成と農地保全を進め、市民の理解と魅力を広げる取組を要望した。
令和7年第4回 定例会 (2025年12月)	アライグマ・ハクビシンによる被害対策／部活動の地域移行／高齢者の介護予防	アライグマ・ハクビシンの出没・被害状況、通報・対応体制、防除・啓発、東京都や近隣自治体との連携を質問。あわせて部活動の地域移行の進捗、指導者確保、特色ある部活動、高齢者の介護予防リーダー育成と東大和元気ゆうゆう体操、健康効果の見える化を確認。	アライグマ等の被害は市内全域で報告され、捕獲状況も令和4年以降増加していること、多摩湖周辺等にも生息している可能性があることと把握しているとの要旨が示された。部活動の地域移行では進捗管理と指導者確保が重要課題とされ、地域団体等との連携も視野に取組を進める考えが示された。介護予防では、介護予防リーダー育成や元気ゆうゆう体操の普及を進めつつ、効果の見える化を進める必要性が示された。	捕獲対策と啓発体制の強化、地域移行を支える人材・連携体制の充実を要望。介護予防については、体力測定等も活用した効果の見える化と、事業全体の充実を求めた。
令和8年第1回 定例会 (2026年2月)	公共施設再配置計画と公有地の利活用／うまかんべえ～祭の中止判断と今後の考え方	公共施設再配置計画（素案）の評価、学校統廃合後の跡地活用、市内の国有地・公有地・私有地の利活用、財源確保など計画推進上の課題を質問。あわせて、うまかんべえ～祭の中止判断の理由、今後のにぎわい創出の考え方を確認。	公共施設再配置計画の素案は、学校を含む再配置や財政フレームについて一定の方向性と課題整理ができたものと評価。今後の大きな課題は厳しい財政状況の中での財源確保で、物価高騰や人件費上昇も踏まえ慎重な運営が必要とした。跡地活用は売却・貸付け・官民連携も視野に具体検討を進める考えを示した。うまかんべえ～祭の中止は、ご当地グルメ創出という当初目的との乖離、衛生・安全面の課題、人員体制上の限界が理由と説明した。	再配置は市民利便性やにぎわい創出につながる形で進め、市民参加と合意形成、長期財政見通しの中で柔軟に見直すよう要望。祭りの精神や地域一体感とは別の形でも継承し、スポーツや観光と連携した新たな魅力発信の場づくりを求めた。

**注：**質問名と会期は東大和市議会一般質問通告一覧表を基礎に整理。答弁要旨・要望は、公開されている森田ひろゆき活動レポート、公式サイトの記事、東大和市議会だより掲載要旨をもとに、配布用に簡潔化している。